

多摩NPOセンター運営検討市民会議  
検討まとめ

～市民活動の第2ステージに向って～

2008年7月



## 目 次

1	多摩NPOセンター運営検討市民会議について	1
2	多摩NPOセンターのこれまでの経過	1
3	NPOセンターに、あらためて求められる機能と運営形態	2
	(1) NPOセンターに必要な(利用したい)機能	2
	(2) 機能を効果的に実現するための運営形態	3
	(3) センターの名称および利用対象について	8
	(4) 当面、21年度からの運営について	8
4	結び	9
資料		10
1	ワークショップの主な進め方と内容	11
2	ワークショップの中間まとめ	12
3	多摩NPOセンター運営検討市民会議活動経過	15
4	多摩NPOセンター運営検討市民会議参加メンバー	16

## 1 多摩NPOセンター運営検討市民会議について

「多摩NPOセンター運営検討市民会議」（以下、「運営検討市民会議」）は、多摩NPOセンターの今後の役割や機能、運営手法などを具体的に検討してほしい、という市の呼びかけに応じて集まった市民で構成されています。開かれた会議として参加メンバーを固定せず、毎回の会議も自由参加としていますが、毎回 20 名前後の市民が会議に参加し、運営検討市民会議が選出した世話人を中心に会議の進め方や内容等を議論しながら検討を進めてきました。

## 2 多摩NPOセンターのこれまでの経過

「多摩NPOセンター」（以下「NPOセンター」）は、2000年5月、西永山複合施設内に開設し現在に至っています。開設に先立って設置された「NPO支援センター運営検討委員会」から2000年1月に「FINAL REPORT」が提言された中で、行政からの自主自立を重視した「公設備・市民設立・市民運営」の理念や、必要な機能、運営形態等が整理され、これを尊重しながらスタートしました。

しかし、その後、2005年度の運営主体の変更（利用団体の代表者で構成する運営協議会による運営からNPOへの運営委託に変更）等を契機に、あらためて、NPOセンターのあり方や、市民にとっての役割が問い直される状況にありました。

NPOセンター設立から8年が経過した現在、社会状況や、多摩市の市民活動の状況は変化しています。運営検討市民会議では、今の地平に立ち、未来を展望しながら、「NPOセンターが本当に必要か」「必要だとすれば、なぜ必要で、何を行い、何を指すのか」を、あらためて、ゼロ・ベースから議論しようということになりました。

### 3 NPOセンターに、あらためて求められる機能と運営形態

運営検討市民会議では、主にワークショップ方式により、以下のプロセスで検討を行いました。(巻末資料1、2参照)

- ① NPOセンターに必要な機能(ハード・ソフト)は何か
- ② その機能は、他の支援センターや公共施設(市民活動情報センター、多摩ボランティアセンター、公民館、コミュニティセンター等)で提供可能か
- ③ NPOセンターでしか提供できない、機能の「核」には何が残るか?  
(残らなければNPOセンターは必要ないということ)
- ④ ③の機能を効果的に提供するには、どんな運営形態が考えられるか

#### (1) NPOセンターに必要な(利用したい)機能

NPOセンターに「必要な」機能については、あえて、「私たちが利用したい」機能は何か、その機能はNPOセンターでなければ提供できない機能なのか、を論点に議論しました。理想論や一般論でどんなに重要な機能であっても、私たちも含めて多くの市民団体から利用・活用されなければ無駄な投資となってしまうこと、また、他の支援センター等で代替可能な機能であれば、NPOセンターを継続させる必要がなくなるからです。

検討結果は4ページの表1のとおりです。支援センターに「定番」とされる機能が残りましたが、検討の過程で特徴的だった点は、市民や市民団体同士が連帯する「ネットワークづくり」や、ネットワークの力を生かした「コーディネート機能」を望む意見が多く出されたことです。活動初期を過ぎ、次のステップに進むための新たなエネルギーや連携を必要とする団体が現れてきており、また、団体単独で動くのではなく、多様な連携を広げながら活動や事業を前進、発展させていこうとする気運が高まってきています。

多摩市の市民活動は、今、第2ステージに差し掛かりつつあると思われます。個々の市民団体の力を次のステージにつなげ、また、その力がつながりあっていくことで、「地域や社会を変えていく形と力」にする好機と捉えることができます。行政が育むのでもなく、他の誰が育むのでもない、市民が自分たちで育む、「市民連帯の力」を発揮するセンターとして、NPOセンターの継続とさらなる発展を望みます。

## **(2) 機能を効果的に実現するための運営形態**

4 ページ表 1 の機能を効果的に実現するためのセンターの運営形態を検討するにあたっては、私たちが求める機能を、「現実的に」実現できる形態、かつ、私たちがセンターに期待する基本コンセプト（市民連帯のネットワークを築き、地域や社会を変えていく形と力を生み出すセンター）を生かせる形態について検討しました。

NPOセンターのこれまでの運営形態を振り返ると、開設から 5 年間は、センター利用団体の代表者で構成される「運営協議会」が運営にあたり、サービスの提供も行っていました。「市民主体」という理念に沿った形態ではありましたが、本当なら支援を求めたい各団体が、他の団体を支援するために、人も知恵も持ち出してセンター運営に協力するという仕組みは、個々の団体に大きな負荷がかかる側面があったと思われます。

2005 年度からは、企画提案の公募方式で市が決定した団体（現在運営している NPO 法人）がセンターを運営しサービスを提供する仕組みに変わりました。この形態は、多様な分野にわたる市民団体のニーズに応えるサービスを、センターを運営する団体のネットワークで提供することになるため、当該運営団体に相当の力量が求められ、また、地域の各市民団体との「顔の見える関係づくり」を構築するための努力と工夫、時間が伴う仕組みであると思われます。

運営検討市民会議としては、表 1 の分析とこれまでの振り返りを踏まえながら、NPOセンターの今後の効果的な運営について、5～7 ページのとおり検討しました。

表1 多摩NPOセンターに必要な（利用したい）機能

<ソフト>

機能	具体的な内容例	実現のための方法例	備考
①研究機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多摩市のNPOのあり方</li> <li>●協働（図1参照）</li> <li>●NPOの資金調達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民主体の研究会等で。</li> <li>●同上</li> <li>●専門家を交えた研究会等で。</li> </ul>	
②相談・研修機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●同業種・異業種間のネットワーク</li> <li>●「市民間の協働」「人材の発掘、育成」</li> <li>●会計、税処理、法人化、助成金、広報の手法等</li> <li>●上記の専門家につなぐコーディネート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネットワークづくりの場を通じて実現</li> <li>●ネットワークづくりの場を通じて実現</li> <li>●専門家（講師・スタッフ等）</li> <li>●インキュベーターマネージャー、アドバイザー</li> </ul>	
③サロン・ロビー機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●色々な団体の人が日常的に顔を合わせる場</li> <li>●市民団体や参加者同士の面識をつなぐ場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●NPOの事務所機能（レンタルオフィス、共同事務所等）</li> <li>●喫茶 or 入居団体のキッチンを開放</li> <li>●ロビー</li> </ul>	拠点（セクター）要
④インキュベート機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幅広く運営、自立の支援</li> <li>●NPO立上げ・法人化・起業支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネットワークづくりの場を通じて実現 + インキュベーターマネージャー、アドバイザー</li> </ul>	
⑤資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運営資金・活動資金の援助</li> <li>●資金調達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●NPOファンド、NPOバンクの運営</li> </ul>	
⑥広報機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●NPOニュース発行</li> <li>●HP制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民有志で、市民の視点で</li> </ul>	
⑦コーディネート機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●NPOとNPO（市内も市外も）、</li> <li>●異業種間交流 （同種NPO、異種NPO、行政、企業 etc）</li> <li>●法人とまちのビジネスコーディネート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既存団体との連携・交流</li> </ul>	
⑧情報収集・発信機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民の視点に立った情報収集・発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民有志で、市民の視点で</li> </ul>	

<ハード>

●事務所設備 ●貸倉庫 ●フリー接続のLAN環境 ●バリアフリー ●十分な電気容量 ●水道、調理場
---

## ＜分析と提案＝現状と課題を含めて・・・＞

1. 前ページ表1に整理した機能を検討すると、ハードを含めたセンター（拠点）機能（設備）が必ず必要になるのは「③サロン・ロビー機能」だけで、それ以外はネットワーク型でのサービス提供が可能であり、必ずしもセンター（拠点）機能を必要としない。
2. しかし、サービス提供可能な各機能（そのサービスを提供できる団体の存在や、その団体が持つ関係ネットワーク）は、まだ、地域内にバラバラに点在しているだけで、それらを総合的・有機的に活用できる「仕掛け」がない。



### ■ 上記の 1.と 2. を同時に実現可能にするためには・・・

- (1) 多様な団体が日常的に顔を合わせることが可能となる「事務所機能」＋打合せ等もできる「交流ロビー」をセンターに設置
- (2) センターを中心に、事務所入居団体＋ $\alpha$  による「ネットワーク型のサービス提供」を行う。  
センターは、ネットワーク連携による各機能の提供と、各サービスを提供する各種団体間のネットワークを構築するための「プラットフォーム」であり「ネットワークセンター」となる。

### \*イメージ

- ① 多様な分野で活動している事務所入居団体が自らの事業を実施  
⇒多様なメニューが一般市民、一般市民団体に提供可能。それら団体の事務所が一同にセンターに所在しているため、自ずとセンター認知度が高まり各種情報や人的ネットワークが集積する。
- ② 事務所入居団体の協働・連携によるメニューを実施 ⇒ 相談・コーディネート機能の提供
  - ②-1 各入居団体の実施事業、或いは、関係ネットワークから持ち込まれる事項の相談・提案（日常的交流の中で）
  - ②-2 一般団体に開かれたラウンドテーブル（テーマは各種）の定期的開催（場所はセンター＋各所で）
- ③ 「(仮)センター運営検討会議」を設置し運営
  - ③-1 構成＝入居団体、利用団体、一般団体等
  - ③-2 役割
    - ア) センター運営にあたってのニーズ把握、事業実施内容、資金計画、情報公開・説明責任等に係る必要事項の決定等を行う。なお、会議は公開とするなど開かれたかたちで行う。
    - イ) 発生したサービスニーズについて、協働・連携による提供方策を検討する。

図1 今後の多摩NPOセンターのイメージ

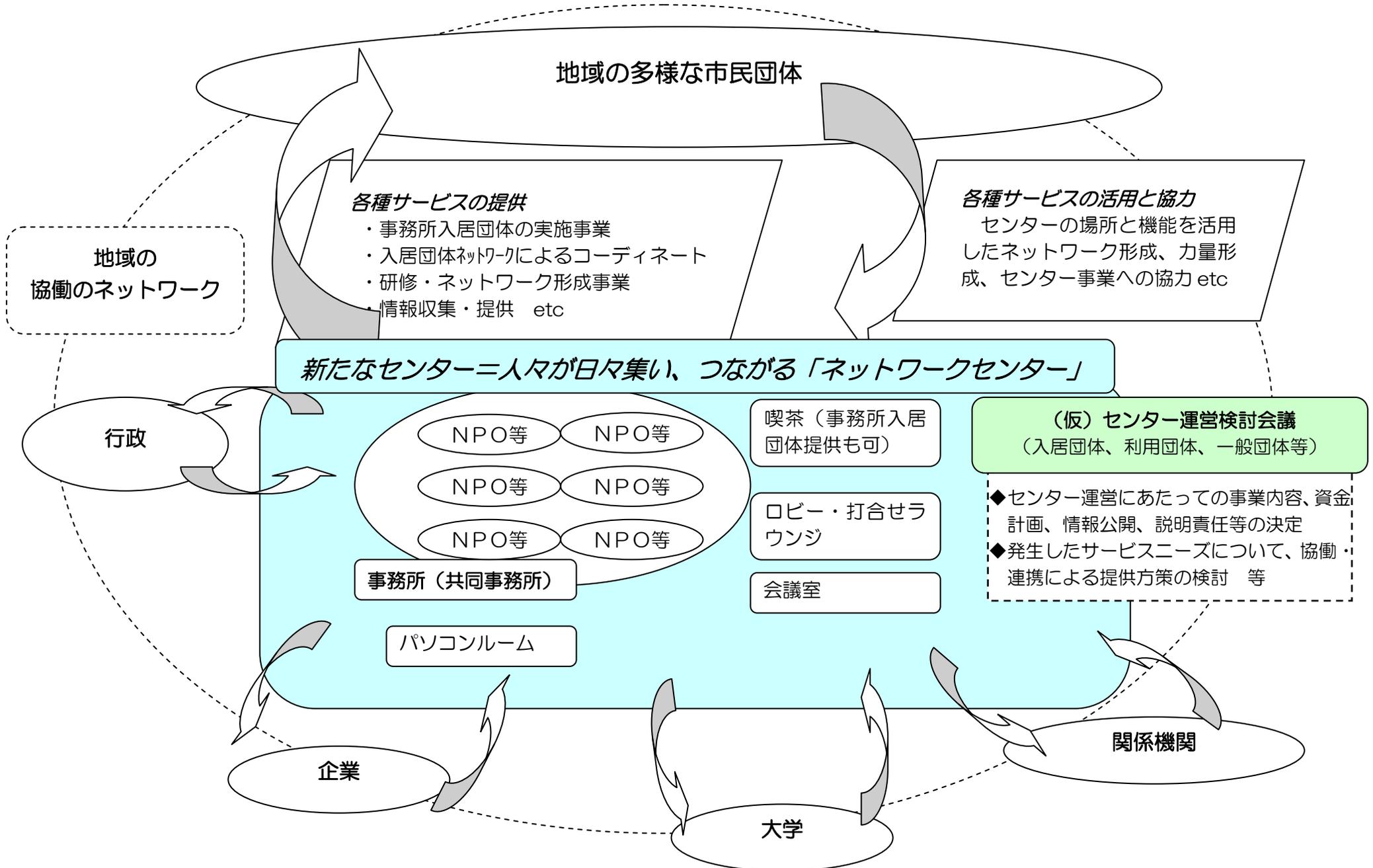


図2 機能実現のためのセンター運営資金

<収入>

事業収入

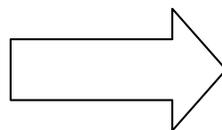
事務所利用料・駐車場  
利用料

会議室・機器等利用料

広告料収入

寄付・協賛（物品含）

補助金・助成金等



<支出>

施設・機器等管理経費

人件費（経常運営部分）

事業経費（含人件費）

①研究

②相談・研修  
④インキュベート  
⑦コーディネート

⑤NPO基金運営

⑥広報（情報誌、HP）

⑧情報収集・発信

※①～⑧は4ページ表1の機能の分類番号に対応

### **(3) センターの名称および利用対象について**

私たちが今後のNPOセンターに期待する役割を簡潔に表現すると、「市民連帯のネットワークをつなぎ、地域や社会を変えていく形と力を生み出すセンター」となります。

また、「市民連帯のネットワーク」の範囲は、地域の多様な市民団体（NPO、ボランティア団体、自治会等の地域団体など）、行政、大学、企業、関係機関等の地域ネットワークを広くとらえる必要があります。

こうした方向性に向かい、センターのコンセプトや利用イメージがよりわかりやすく伝わるよう、センターの名称も、「名は体を表す」ものとするを提案します。運営検討市民会議で出された名称案は、次のとおりです。

- ◆TAMA市民ネットワークセンター
- ◆多摩協働推進センター
- ◆多摩NPOセンター（現行どおり）

### **(4) 当面、21年度からの運営について**

私たちの提案した方向性で、今後のNPOセンターが再構築されるとした場合、それが実現するまでの間、現在のセンターを閉鎖・休止することは、これまで蓄積された情報やネットワークの継続を含め、利用団体へのサービスの継続性等の面から極力避けるべきと考えます。したがって、その間の運営については、最小限の施設・機器管理を行うこととし、4ページの表1に整理した具体的な機能の提供も含めて、市民参加でさらに詳細を検討しながら、順を追って具体化していくことが現実的と考えます。

## 4 結び

運営検討市民会議では、様々な活動を行う市民が集まり、行きつ戻りつの議論の中から、一つひとつ合意を積み重ねてきました。

こうしたプロセスこそが、市民の自治が試され、互いの意見や立場を尊重しながら知恵と力を併せていくことの重要性を確認することであったと考えます。

多摩市の市民活動は、今、第2ステージに差し掛かりつつあると思われます。個々の市民団体の力を次のステージにつなげ、また、その力がつながりあっていくことで、「地域や社会を変えていく形と力」にする好機と捉えることができます。

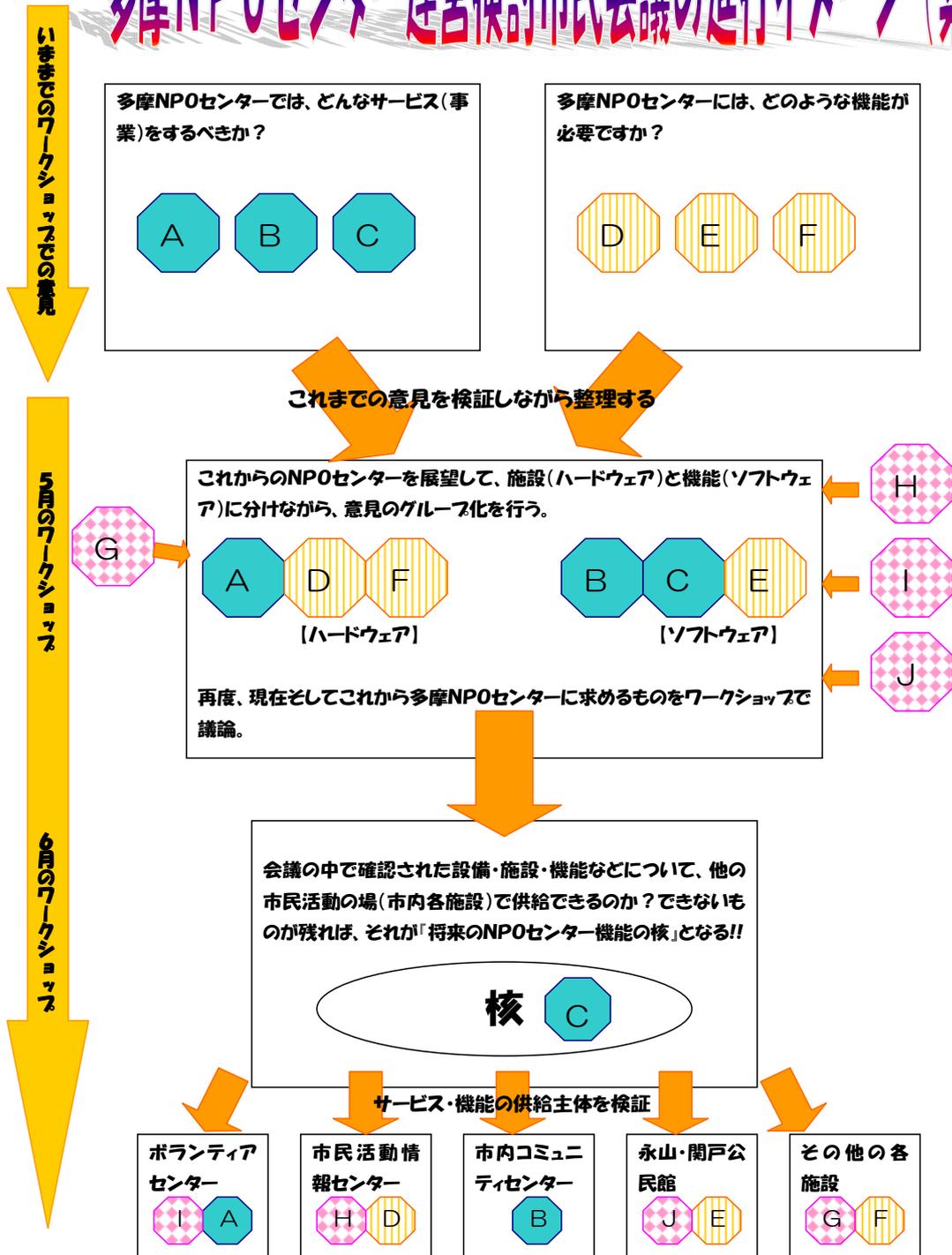
今後、「(仮)センター運営検討会議」を通じて、基本的な運営体制と具体的事業、基盤となる資金等について議論を深め、「市民連帯の力」を発揮するセンターとしていくことが私たち市民の使命と考えます。

# 資料

# 1 ワークショップの主な進め方と内容

(2008. 5. 8 第 6 回会議資料)

## 多摩NPOセンター運営検討市民会議の進行イメージ (案)



## 2 ワークショップの中間まとめ

(2008. 6. 7 時点)

### <NPOセンター独自に必要なもの・ハード>

#### <ハード① 機能>

- 「レンタルオフィス 共同事務所」  
「個々のNPOの事務所」  
「事務所機能=インキュベート機能 両方セットで必要」  
「Office 貸事務所の住み分け」  
「公開する連絡先 住所（郵便受取先） 電話（引継先）」  
「事務所機能の整備要 家庭内用務からの開放 活動のオープン化」  
「多摩市所有施設の開放 事務室 事務機器の無料化」
- 「貸倉庫機能」

#### <ハード② ハード環境>

- 「電気容量」
- 「駐車場」
- 「エレベータなど階上への移動方法」
- 「LAN環境」
- 「市議会・市内各イベントなどの中継モニター」
- 「自販機の設置」（賛否両論あり）

#### <ハード③ 立地>

- 「立地は現状で」
- 「恒久活用としての学校跡地施設」
- 「桜ヶ丘へ」
- 「ヴィータ」
- 「桜ヶ丘で市民活動情報センターと一本化を」
- 「場所は多摩センターがいい」
- 「交通の便の良さ」
- 「あまり分散しない方がいい」

## <NPOセンター独自に必要なもの・ソフト>

- 「研究」
  - 「研修 相談」
    - 「法人化セミナーの必要性 人的」
    - 「法人化の手続き」
    - 「NPOの広報 HPの制作など ペーパードキュメント」
    - 「会計処理＝税処理」
    - 「助成金等」
    - 「NPOを立ち上げる際の相談機能」
    - 「経営に関する相談窓口」
  - 「NPOについての資金援助」
    - 「運営基金 活動の資金 援助サービス」
  - 「NPOの自立 起業支援」
  - 「中級NPOへの支援体制」
  - 「幅広くNPO、NPO法人運営の応援、設立の応援」
  - 「NPO法の基本から考えると事業内容の12項にしぼられて良いと思う」
- 
- 「インセンティブをとる 実利・実用を市民に与える具体性」
  - 「整理」
  - 「市民活動情報センター ボランティアセンター NPOセンター 起業支援」

## <市民活動情報センター？ 情報センターとの中間？ 両方？>

- 「市役所 etc 担当課とのコーディネート」
- 「市民団体のネットワークのきっかけづくり」
  - 「市民団体の参加者同士の面識をつなぐ」
  - 「ネットワーク NPOと市民 NPOとNPO」
  - 「市内及び市外の団体との交流と連携」
- 「NPO+NPO コーディネート」
  - 「法人とまちのビジネスあっせん」
  - 「仲介サービス」
  - 「センター職員によるプロデュースとコーディネート」
- 「情報の収集・発信」（特にNPOセンターに特化すべきもの。詳細は別途議論）

### <他の施設でも提供している（できる）もの>

- 「事務機器、印刷機の使用」
- 「団体支援」
- 「人材 技術 継続」
- 「市の公共サービス 新しい公共づくり」
- 「ボランティアセンター 市民活動情報センターとの情報の共有」
- 「相談機能」
- 「得意技（わざ）の共有」
- 「知る縁 ⇒ 顔の見える関係性」
- 「情報公開」
- 「全員が個としてもものが言える」
- 「多摩市だけに携われない活動へ」
- 「障がい者に対して」
- 「スペースの使用 会議 作業イベント」  
「会議室の貸し出し」
- 「パソコン塾」
- 「使用時間」

### <市民活動情報センターで主に提供しているもの>

- 「WEB情報 情報発信 NPOライブラリー⇒ビジュアル情報」

### 3 多摩NPOセンター運営検討市民会議活動経過

回数	開催日	議 題
第1回	平成20年 2月14日(木)	① 会議のスケジュール ② 進行役・世話人の選出について ③ NPOセンターに関するアンケートの結果について ④ 市民活動情報センター運営委員会中間報告について ⑤ 今後の進め方について
第2回	3月 1日(土)	① 会議のスケジュール ② 進行役・世話人の選出について ③ NPOセンターに関するアンケートの結果について ④ 市民活動情報センター運営委員会中間報告について ⑤ 今後の進め方について
第3回	3月13日(木)	① グループ討議(多摩NPOセンターではどんなサービス[事業]をすべきか?どのような機能が必要か?) ② 各グループからの発表
第4回	4月 5日(土)	① グループ討議(多摩NPOセンターにはどのようなサービス[ソフトウェア機能]、どのような設備[ハードウェアとしての機能]が必要か?) ② 各グループからの発表
第5回	4月17日(木)	① 会議の進め方について ② 市民会議運営のルール(申し合わせ事項)について ③ 今後の会議の進め方について
第6回	5月 8日(木)	① 世話人の決定について ② 市民会議運営のルール(申し合わせ事項)について ③ 市民会議のスケジュール及び具体的な獲得目標
第7回	5月24日(土)	① 会議の進め方について ② グループ討議(多摩NPOセンターに求める機能[ソフト面・ハード面]について)
第8回	6月 7日(土)	① グループ討議(多摩NPOセンターに求める機能[ソフト面・ハード面]について)
第9回	6月19日(木)	① グループ討議(多摩NPOセンターに求める機能[ソフト面・ハード面]について)
第10回	7月 5日(土)	① グループ討議(多摩NPOセンターに求める機能とその分析と提案についての世話人案の検討・確認)
第11回	7月17日(木)	① 検討まとめ(世話人案)の決定

#### ※世話人会開催日

5月1日、5月8日、5月12日、5月24日、5月27日、6月3日、6月12日、6月19日、  
6月25日、6月30日、7月7日、7月8日

#### 4 多摩NPOセンター運営検討市民会議参加メンバー

秋元 孝夫★	石渡あきら	岩永ひさか	岩本ゆかり
浦田 純二	遠藤めい子	大塚ゆき恵	大津山壽久
落合 重美	片桐 徹也★	川口 承臣	北川 清司
倉井 富雄	黒岩 克彦	今野 幸男	篠塚 元
柴田 ゆき	清水 昭	白石 省吾	関 靖彦
妹尾 浩也★	返町宗一郎	高橋 俊彦	立山 裕子
寺田 桂子★	寺田美恵子	中澤さとみ	中村 弘子
難波由紀子	西田 昌弘	野々村直登	橋本 孜
濱田 雄三	平野紀美子	深尾 香子	藤井 義弘★
牧野 順一	水野 宏	南 文憲	都田 浩司★
三好 正義	向井かおり	山内 一秋	山崎 誠
山田 祐子	山野 篤★	横井 陸郎	渡部雄一郎

(他、手話通訳者2名)

50音順 ★印=世話人

※ 会議に1回以上参加したメンバーは原則すべて掲載しています。

**多摩NPOセンター運営検討市民会議 検討まとめ**  
**～市民活動の第2ステージに向けて～**

2008年7月

事務局 多摩市くらしと文化部市活動支援課 事業担当  
〒206-0011 多摩市関戸4-72 ヴィータコミュニェ7階  
☎042-376-8312

印刷物番号

20-12